

## ⑥8 その他河川 天地川 砂防激甚災害対策特別緊急工事(堆積工)における取組について

受賞機関 広島県 西部建設事務所

**キーワード** 地域一体となった復興、地域防災力の強化、災害伝承

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

平成30年7月豪雨で甚大な被害を受けた坂町小屋浦では、緊急砂防事業を推進し、天地川で計画した5施設の整備により、同規模災害に対する安全度を確保した。災害関連緊急事業を行うに当たり、きめ細やかな住民説明を重ねることで事業理解を促進し、円滑に実施できたのみならず、地域住民の発意により、災害伝承の様々な取組の実施につながったことが評価された。

### 1. はじめに

広島県安芸郡坂町小屋浦地区には、多数の溪流が存在し、降雨時にはその多くが天地川及び天地川の支川へと集約される。

平成30年7月豪雨では、大規模な土石流が発生し、天地川などが埋塞・氾濫した。この結果、地区の家屋の大半が倒壊又は土砂で埋没し、15名の尊い命が犠牲となる甚大な土砂災害となった。

### 2. 事業の概要

流域内には、溪流侵食や崩壊地が多数あり、調査の結果、約86,000m<sup>3</sup>もの土石流対策が必要であることが判明した。そこで、流域内に4基の砂防堰堤を整備し、堆積工（約7,500m<sup>3</sup>の土砂を抑制）を組み合わせ、全体計画を立てた。

堆積工は、土石流を減勢することで、土砂を堆積し捕捉する施設であるが、今回のような大規模な整備は、県事業として初めての試みである。



堆積工を下流から上流に向け撮影

5つの砂防施設（砂防堰堤：4基、堆積工：1箇所）については、令和元年12月に1基目の堰堤が完成し、令和5年5月に堆積工が完成、令和6年2月に砂防堰堤4基目が完成したことで、土砂災害に対して必要な安全度を確保している。

### 3. 事業の成果

小屋浦地区においては、災害直後より、復旧工事、防災工事が継続しており、地域住民から、「大規模な災害があったことを後世へ伝えたい」、「地域の防災意識を高めたい」、「何か記念として残せないだろうか」との声が寄せられた。そこで、施工業者協力のもと、地域住民とも相談しながら、災害を忘れないための取組として、護岸や底板コンクリート面に地域住民の方々に『小屋浦の好き・願い・笑顔』をテーマに絵を描いてもらうこととした。

このことにより、地域住民に事業への関心や親しみを更に持っていただき、子どもから大人まで様々な世代が参加した。そして、土木構造物をキャンバスとした、災害の伝承につながる夢のある取組が実現した。



地元園児の描画状況

### 4. おわりに

お披露目イベントでは、こどもの日が近かったことから、堆積工の上空を青空の中、鯉のぼりが泳ぐ姿がメディア等に取り上げられ、終始笑い声や歓声が絶えず、地域住民と一体感のあるイベントとなった。堆積工は、投票形式で愛称（小屋浦いこいの美術館）が付けられ、地域で愛される土木構造物となっている。



お披露目イベント時